

非営利特定法人原子分子データ応用フォーラム
平成 26 年度第 2 回理事会

1. 開催場所 核融合科学研究所 I 期棟 416 号室
2. 日時 平成 27 年 3 月 19 日
3. 現在の理事と出席理事 理事総数 3 名中出席理事 3 名
鈴木（村上）泉、佐々木明、田沼肇
4. 配布資料
なし
5. 議案
第 1 号議案 平成 26 年度事業報告について
第 2 号議案 平成 27 年度事業計画について
6. 議案の審議状況

第 1 号議案について

定期総会および法人市民税の減免申請のため、今年度の活動の成果や課題について総括し、平成 26 年度事業報告書をまとめることとした。

第 2 号議案について

原子分子データのシーズとニーズのマッチングのための、平成 27 年度事業計画について検討した。

- ・ フォーラムセミナーは、原子分子データのシーズとニーズのマッチングをテーマに 12 月ごろ行うよう考えることになった。

- ・ 「人間データベース」「欲しいものリスト」の実現方法について検討した。

会員および一般の研究者、技術者のシーズやニーズのリストがあれば便利と考えられるが、リストの作成、公開には人的、技術的に多くの課題がある。

データの入力には会員が自ら行うことが、手間の面でも作成されるリストの質からしても望ましいが、これまでの google groups の運用の経緯からみても敷居が高い（実際に運用において、特に一般の利用者のアクセスの便利のためには、google groups 他、既存のシステム（SNS）を利用することが一般的には有利である。しかし、「人間データベース」「欲しいものリスト」に最適なシステムとすることが困難だったり、使用に抵抗があったりする。一方、オリジナルなシステムを一から構築するのは手間がかかりすぎ困難である。仕様を分析

して良い方法を見出したい)。

- ・ 「プラズマシミュレーションに用いるレート係数の推算方法の調査に対する分科会」の活動状況、今後の課題について検討した。

既知の原子分子データのコミュニティおよびそれ以外（量子化学等）のコミュニティの知識を集め、計算式、計算プログラム、それを利用している人の情報、その対象原子分子種や原子分子過程ごとの情報を収集し、推算方法の調査の結果を形にすることが必要ではないかと考えられる。

- ・ 会報を活用した原子分子データのシーズとニーズのマッチングについて検討した。

会報が四号まで発行され活動として定着したので、この目的のために活用することを考える。データのニーズ、シーズの情報を発信したい会員（会員でなくてもよい）が書いた記事を掲載した会報を、広く配布してマッチングが起こることを期待する。これまで会報は正会員、準会員のみ配布していたが、会員からマッチング可能性のある相手先を集め、広く配布する。

以上この議事録が正確であることを証するため、議長及び議事録署名人が記名押印する。

平成27年5月19日

非営利特定法人原子分子データ応用フォーラム

議長

鈴木 泉



議事録署名人

佐々木 明



田沼 肇

